



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国民社会の研究 第8巻
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Description	『鈴木栄太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
Issue Date	1960-12-23
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77589
Type	manuscript
File Information	I011_018.pdf



8



NOTE BOOK

Specially Prepared in Tokyo

國民社會の研究
第八卷

昭和二十五年十一月十日

十條製紙特産 フォールス

8

CONTENTS

国家の認識における条件	1
民主化と国家	10
都市の枠組と民主化	13
政治の構造	15
圧力団体	17
支配者の支配としての政治	18
三年の基本的社会的構想	24
選挙と民主制と政治	31
東洋社会における選挙制度と	
①近親嫁娶禁制の重大性	37
古代日本政治の特色	39
末端行政機構	41

232
1776
4
1
5
1
1
2

私の考ふところは、

口泉は政治力の渇き、人が
すむ人々を征服し、屈服
させ、その周りに

此の
國狀
仕能
及に
不^レ知
鑑^ニ
時^ノ
に^ハ
維^テ
材^ト
せし
め人
や

すゝ 社会の構造は政治で決まる

政治力の強い人が周囲の人々を征服するのには征服のための征服もあるであろうが、もっと切実には自からより豊かな生活を楽しむために出来、大に自由な生活を享受して出来、多く消費する事が出来、更に、征服した人々にも出来、大に出来、又、征服した人々を道徳者として

あるは、自分が果して生活する様に
思ふまゝに被征服者達を馳使し得
る様にすゝ事が政治の窮極の目標
である。

その意味では政治は政治する人の為
の政治する人によつて被征服者の持統
の探取行為であるといふことである。

而の標取行為が可能であるのは政治す
る人が政治される人より強力なる

武力を備用するからである。かゝる政治は
被征服者は政治する人の暴力が恐
ろしいから政治する人の命ずるまゝに従
はなければならぬ。兵は兵庫の力を
を指すといふのは常に政治する人である。

政治する人の眼中には自身が他国よりも
人々の群が多ければ多い程、政治
力の強化となるから自分の支配する
世界の領域の拡大を常に希望し
民族の境界も他国の口境も操
るあたりはより進んだ様とすゝ野望も
にもなっている。

凡そ政治や外交の正しい判断のため
は右の様な世界人類の混戦の時代
を思はせゝ様な時代について考え
みよ事が必要である。二戦に對して
私等の身辺に於ける政治活動は
どんな形で行はれてゐるが、それは
次の様に説明されるものである。

平和な時代には、新しい政治主權

力保有者は其の保有者の望しむ所
 椅子に坐する。たゞ主権力保有者
 である。兵隊は倉庫の力やもその椅子
 の傍に置いてある。政治の権力保有
 者の力を口玉又は大統領の官
 制と考へてもよい。これは丁度
 主権者の椅子にある人であるが、
 この主権者の椅子は古代から存続
 してゐるものである。多少修繕の手は
 加へてゐるが大體の形は昔のまゝであ
 る。主権者の椅子に坐する者は彼の思
 ひの通りに金に民を支配するが
 出来る。けれども主権者は一体何
 をなすのかあるか。生きて行くの

て階一杯の最低生活水準から何を奪
いとりすか。出来るか。市実、主権者の精
神に覺する人が変わったとしても口民
生活の末路には何の變化も出てこな
い。椅子そのものが大げさに塗りかえ
る。それか、あつたとしても口民の末路
には何の變化もない。

政治は精々大さくおつて、人々には
入可な影響もあろうが、持たない人々
にはあまり関係はない。持つてゐる人々は
自分の都合よい人々を権者の椅子に
坐せしめ、自らを退けようとするので、
権者の座は常に持つてゐる人々によ
つてめくられて来た。持つてゐる人々の同
の利害の動によつて、その人々の同の

争奪の対照となつて来た。持つてゐ
てゐても財産の所有と夫ではな
い。それを光つてゐる人が生活の中
にゐるの出来事。即ちの地位も
の所有が政治的争奪の対照
なる。然し財産は政治的争奪の
対照となす有力なもの一つである。
故に少くとも財産上の優劣の差
がある限りは国家は当然に存在する。
けれども其優劣にも個人的に優
位優位の差がある限りは国家は
その特殊組織の力にはなほ
国家の武力も必要と見えてゐる。
国家の争奪編成の時にもその
対照が先になつてゐる。又

あや字取、其解に對す。人の好みは
同様でなし、是れ其のものに對す。
下算の壹毫には、壹兩も他人を
有し、其の等である。ある。
人同の世界には、其の永久の
其は、其である。人の好みや
其の好みが、同一の型である。
其の好みが、同一の型である。
其の好みが、同一の型である。
其の好みが、同一の型である。

民元化と口家

古代帝王の口家と今の大統領の口家もその本質において何もかわらないところはない。

古代帝王においては政治は帝王の手の政治であつたが大統領の口家においては政治は口民のための政治とでもいふことがあらうか。

大統領の口家の政治も手は、大統領自身の他人のための政治にあつた。自民党の政治は自民党自身のための政治であつた。政治は社会党自身のための政治であつた。然し民元化の政治は皆口民のためであり、それがかゝる事である。

けれども強ひてがゆゑより採取
す秩序ある責任として政治の
意味は少しも空でない。
考慮するに経済上の財に因る
採取はなすかも知れぬが
財は色々の文化にも存し採取は
その子の生活に於ける他人との
ある限り存在す。口泉は
人の生活が双方向の間に皆一様
になつてしまふ事は存続しな
ければならぬ。
政治は強ひてがゆゑも支配
す。経済的な関係なりを之とす

⑤ 政治は富の採取を伴はないう
は非之られたいから経済現象
に關する支配や制は常に
行なわれる事は明白である政治
に政治は常に経済現象の支配
を伴ふものと見らるゝが本来は
政治は何よりも先づ経済現象
の支配を試みるものであるが、
経済現象は常に行政の枠の上
におかれる。政治と行政は互
のうちに成す。

都市の機能と住民生活

都市は元來の要素の結合として
の機能を果すという。その機能は
この機能を最も活用し得たもの
ものは統治機関である。この機能
は、統治の力に依り、都市機能は
しるべきものである。
都市は人間の生活要求
充満の為に発生したものである。
あらゆる生活機能は、その
用易に活用され、発展を遂げ
てくる。⑥
都市の機能は、行政機構と
都市の枠組みを形成し、
この枠組みの上で経済的
的機能が生じ、独自の社会
的統一がなされるのである。
文化的

政治と経済の標本
的統一作の経済の年
行われその上に格の文化
の均等性や独断性
いさ小い事である。取
るに於けるこの経済年
そのありつ民族など
すかある。

政治の構造

政治の構造は統治者と被統治者

統治行政府に主としてその方面の

構造である。最後の統治者で

は直接に人民と接するものである

が、人民は統治を知らず

てはならない。最高

最高の統治者としての君主の側

の部下を支配する。また、その

の下の最高の部下は亦その下

の最高の部下を支配する。

行政の統治は行政の統治である

人民を直接に支配する。う

に本来的な政治である。けれど

も統治する。ヒールマンの構造

てある。これは、
この文の文法を
示す。この文の
文法は、この文
の文法である。

27

従来、政治も法律も大抵最低の統治をよる最高い統治から下の経済や法制についでたてられ下にある。口實の故郷の国に足しあつたが、その政治の技術では口實は一人かの最善案をすべしとみて口を洗ひようかある。

又一人の
 口を洗ふ
 かの最良
 の術では
 口を洗ふ

大工
口
を
洗
ゆ
ふ
と
水
を
か
き
よ
め

圧力関係

力の流れの所に圧力関係と云
ふ語を用ひてゐる。日本の政治に
對して圧力を用ひてゐる關係と云ふ
意味である。保字の字に圧力関係と
云ふのは日經連（日本經濟新聞連盟）が經
済政策局長の遺族である。政治關係と
云ふ字、第一、それは總評、日教組、

支配者の支配としての政治

明治十五年前後の土佐藩士等の
自由民権論者の活動は人が政治の
生の姿を見てそれに対して驚いている
横激の裡の中の様である。

政治や経済が固定してしまふと政治
はその本来の人民統治活動からぼ
ろれて統治する者達の統治の活動に
いつてしまふのである。統治者達の
経済組織が国家組織となり統治を
遂行し統治活動が行政活動の形にな
ってしまふ。最底面の人民大衆は
このやうな緊密な組織があるとも自覚
し得ない。何の組織もないやうに漸次
死んでしまふ。

18 政党は次第に底面の人民とハナリ

にして成立す。けれども政黨が強大な
力では自然に口民を支配し口民から遠
ざかり、統治す。人々^に國にの對策が
うつて行く。この事は日本の政黨の
成立以來にもほゞ同様に行はれてゐるので
あるのか。

政治家も一般に口民を弄るの才
あるが、少し字面とくさすやうなものを
水で、目につくとその統治する人々に
國にうつて行く。

政治は本質的に政治する人々の
政治である。性質をもつて。けれども
いかなる場合でも政治は最後口民
に對する統治活動に外ならぬ。政治
家は政治する者道を統治するは

自から口良大衆は統治される事を
知つてゐるであらう。

私は是の日本の口体についてはおろ
せぬ同じぢやないか。それは天皇は
明治に存せしめて何時の時代にも
衆民衆の意識の中には良くと悪くと
恥はせしめなかつた様であらう。にも拘らず
長い将軍統治の時代にも将軍達は
天皇の存在を素直に認めてゐる様
である。天皇の存在を完全な神聖
時代があつたかも知れらう。敵として式には
存在を認めてゐる天皇を認めてゐる軍
であるが、今親する事はなかつた様
である。

20 恐らく天皇一家は非生産的でありな

かゝる何時と相成るの暮しを遂つて来たのは
巫的な妖術と云つたものか否かの
傳来の印家サカデ、天下を統一した
は神として陸奥の方で自^己の存在
を知りしめ、何れかオチツカイして
天下統一の實を働かせる事だとい
ふのである。そしてこの口は自
ら遠く東の松竹でつゝあるかの様を
錯覚を代に持ち、それが自分のあつた
り口民のあつたあつたの傳説をついて來
たのであると云ふ。それの

同じくはさして口民大衆は、どうして上
のやで、統一した実力者が同じで、その
実力を働かせる妖術のお家サカ
デ、東の傳説であるのである。

④ 征夷大將軍の尊厳を授け

られし、五カカナンセスをいふは

思いつく、成るもあかき將軍

は子供の如く、おれに授けて多

くか悪くはたし、何か位がき

な氣にせよ、のて、授けお天

まつ多財にたさるをいふは

あろう、自分の地位の高いう

表にしく、天皇をないがしる

す、すは、自分の地位の表に

かしらにす、てり、あかき

天皇を大にす、す、す、す、

天皇を自他、あかき、あかき

ル、あかき、あかき、あかき

天皇の親政、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき

口民は、低而下、その直接の上に支配を

かあり、その支配王の上に支配を

その支配王の上に更に支配を

支配王を支配す、総て、五カ

政治、あかき、將軍、あかき、あかき

をいふ、あかき、あかき、あかき、あかき

支配王、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

あかき、あかき、あかき、あかき、あかき

＊あつても最高の支配力者の支配
である。明治天皇の女が如くである。
天皇は實に日本の民の統治に経
ずしてはならぬ。

思はれぬ。

三重の基本的政治的枠組

家族といふ民衆生活の生活の
強固な枠を以て、事は私等の
体質に於て誰にも即ちかたあるや。
垣根一つを境とする隣家との社会同
位か如何に別世界に見え、事は又隣
家の幸不幸も別世界の出来事であ
る。又曰境かゝる民生生活に如何に高い
障壁を以て、今は日本人は北と南と
との境、西と韓との海上の口が
敵と味方を区別する。高い障壁を以て、
ある事を教える。

家族といふ民衆生活の生活の
内外の境界が如何にこゑかあるもの
であるかは、私等の体質がよくそれ
を教える。けれど家族といふ

民社会との中にある。取捨は其の境界
は今では著しく不明確なものである。
である。年と共に不明確になりつゝある。
交通機関の発達と治安の維持が著
及徹底して来るからである。

大都市の用いでは最も不明確な
い。治安維持が徹底し交通機関
の発達に伴つて来るからである。

年代をさかのぼれば、昔人は何
れかの取捨を必要とせなければなら
生活をついて行く必要があった。
今では余りなく、いや余り差
なくしてやる必要はない。

今日では人は衣服を以て長く生か
れし、自然の食料で生活をついて行く
が、

予も、自分の洞窟から起死する事も
容易ではなからう。人に見つかれば殺すの
危険のみ、極端な生死の境を往来する
人の経験は、さういふ事がある。予もある。予もある。

犯罪人の逃走生活、敵地に生きたり、
魔物兵の生活。五平安を結ぶお
と生活は、おとと経験は、さういふ事である。

けれども、その端々、予は天の雲を新
のみに生きたり、さういふ経験は、さういふ事である。

夜中にいるか、とこかの人里に近か

つて、人の年の加が、さういふ事である。

つて、人里に近か、さういふ事である。

ろろ。人里に近か、さういふ事である。

要統記、さういふ事である。

たしか昭和五十年、さういふ事である。

ある別と云ふ田舎川の近くの小山の
洞窟内で戦犯中から住んでいた中に
人の徴用労働者が見えられたことがある。
戦時中、中頃から徴用されて来た中に
で、炭針労働者として使われていた
ある労働者が、洞窟に出入りして来た
洞窟に入り、そこを探索しては本人
の人を見つけたのかと十回も、ひそかに
見張っていたのかと、熊鷹の機師が
恐ろしく驚き、穴から出て来た。その
されど、その洞窟内にもまた四年後の米
が一俵あると云つた。とんだ金庫に
れ、金庫の扉は、衣倉をわけて、金庫
である。その扉を、開けて、金庫の中
の、この別所である。その金庫の中

[illegible]

1
 2
 3
 4
 5
 6
 7
 8
 9
 10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525

口民不吐
其先私
也素
た

70
8
13
10
9
21
3
5
3
v
76
16
12
2

18 友々別也男生者

爲
 床
 種
 の
 内
 の
 考
 へ
 結
 ぶ
 物
 左

家務の外は、たゞ「踊る」のみ。

の
我
の
と
の

世の爲に

今、
内
外
夏
不
分
外
外

我
不
世
等

の世を以て孝悌を以て

い
か
故
こ
所
種
や
不
の
に
た
を
し
に

死の三つは人同し活の三つは
 かなきりなりと云ふなり。

選挙と民主制と政治

口角選挙、選挙における投票事
か一般に甚だ低い。特に都市の知
識階級の人々の投票率が低い。
農林や、教養の低い階層の人に高い
のは、何を意味するか。

一般に口角は政治がどんなに盛んで
も、政治が盛んになると口角生活はそれ
程盛んにならないうちを知っている。
とんが政治にならないうちが、
それをとつて口角生活の底面には
強いつい、変化のない事を口角は
座への愛により知っている。だから口
角は政治と政治家に親しむ距離
同心をさして一歩。政治が政治
する人に対する政治ではない。

あゝ。

中村村にや、投票所が、高田のば、
投票したいと政府からひと目に見
るはさるゝか、知れぬと云ふ心配か
う下あるのが、その一つ、世々のこと
によつて中村の政治下請業をしてい
私分から何かにせうされていゝため
あり半ば脅迫されて知ること、
には病をあらせしむるが、けい
たゝぬと云つてゐる場合が多いのか
その一つの原因である。中村のお
を使ふのは保身にも、中村のお
中村から集まる。中村は、大抵保身
である。農民や、知事力なとん底に
近い口氏こそ、又選挙の時、こゝに
32

然陣の空に掃力す可きであるのに、要
うつな保保の政治ではばそんな気
多力な国民をおおいたうたすたし
て、天に命をつたはるべきである
一つおたえしては本の政治が充た
民主化しては、一帯國はあつた
~~社会~~ 社会があるから、民主化して
か、民主化してあるから、政治は国民
に對す。政治は国民に對する
たうぬ。少くとも日本には今日政治
は国民に對する。人々に對する支配
である。国民を支配する。政治は国民
に對する。日本は今日政治は国民
の向かうところではないかと云ふであ
らうか。その政治は国民に對する。何ん

と仰せ居り臣の如きもつ素直に
ある人れ、一度統治の中へ植威
あり云植者の椅子につくととん
に彼は自ら民を老れざるをた
なり。主権者の椅子に附着し
る傳統神祇と共にその椅子の傍
に設置しある武力統御者のボ
ンヤこの椅子を世に受けつた
にどうかといふ。官傳制は主権
者の口を新し目録敷く耳を聳し
て主権者の力をおさへ主権者は
その椅子にあるたび座者の様子を
し何をなす力もおなくなつた
主権者か口民を思ふ事なしとん
つた意中の形になる。主権者の

地位は日本では古来からその
あったのである。

秀吉の朝鮮征伐のかりには五木
の子守翳を生んだ。暴虎が口民
に對する政治の政策である。

政治の丁半について五木は暴

虎の丁半である。暴虎は

若木は政治である。主権を

最後は口民の政治階層を

に對する政治の支配階層を

ある。口民の政治階層は

統治階層の役人ばかりは暴虎

の下手人である。

今の世では執達吏や故言官や

常の憲兵、駐在高等

刑事 ~~は~~ 面商の最下部統治

機同 ~~の~~ であるが、実上は正

その下 ~~に~~ には、~~と~~ 要室と夜

分とも云え、~~を~~ 方面を欠り

そのかゝるところにある。

行政能 ~~の~~ として、町村が最下部

であるが、町村の下には、~~と~~ 区が在り

区長がある。区長の下には、~~と~~ 地区

委員がある。そんなところの政治

の ~~上~~ ~~の~~ には、~~と~~ あり。

中果部には、~~と~~ 政治部がある。

ルオ、~~と~~ だが、口民は攻撃が来た

その後には、~~と~~ 知た。政府が口民

にその為には、~~と~~ 村にどんな

年をうけて、~~と~~ 民を救うんが、立

ていふか、おは、知、ぬが、中、央、初、め、
 三、三、三、下、各、部、一、段、し、て、解、知、し、て、い、た、の
 じ、は、な、い、の、下、は、な、い、か、と、是、よ。

(五、六、一、二、三)

これは根本問題だ

近親婚の禁止制とその能な

年令の制限とその能な

同居関係の制限とその能な

同居制と子親の法制と家族

西洋では何親まで結婚出来るか

中口の近親婚の限界如何

中口の多量増厚を脱却する如何

中口では夫婦の別は別々同居

西洋では夫婦の別は一線一線（別棟別所）

日本では夫婦は同様同居

この上を助成

東洋近きからいけば年令階層制と近親婚の禁止制の重大性

日本は西洋と中口朝鮮との中

字にある收養の文化を多く持つ。格に異なる。日本の強さをここにみる。

日本では近親婚の禁止は朝鮮の中口より厳格である。

日本では少くとも三親まで内を指す。朝鮮では本母舅と叔を同じくす。

中口では夫婦の別は別々同居。西洋では夫婦の別は一線一線（別棟別所）。

年令制限の同じ日本は朝鮮より厳格である。然し西洋では先年経第と女子親とをいふ。

西洋では夫婦の別は一線一線（別棟別所）。日本では夫婦は同様同居。

この上を助成。37

人間社会の秩序

1 政治
2 経済
3 婚姻

この三つが人間生活を支える最大の問題である

I 経済 (食のみ)

II 婚姻 (性のみ)

の二点が人間活動の根本
その二点のための人間活動に秩序をさへ
といふのが政治である。力の存。

政治活動のための経済活動

- ① 政治活動
- ② 経済活動
- ③ 教育活動
- ④ 娯楽活動

かぎを成すもの。
政治活動の整備は政治の任務

農村 (農民)
都市 (市民)
工場 (労働者)
政治 (政治家)

西洋の意味、東洋の意味は
的意味を強解す。より近親
の程反知何より重要不占
と思はれ。

（記）考を本邦の歴史より見れば
元来下は水田稲作と鋸屑か畑作稲作と
吾銅器より先に現れた。こゝでは恐らく

王城都府は農村に先立ち、I 政治を
たのてありきか。
（又同様に）

（経済の地を基盤として都市の配置をこれ
とした。この王城都府の基盤は、
の要を成す）

38
（政治の代りには食を成すものにはあらず。政治の代りには食を成すものにはあらず）
三六、一、二
七
（政治の代りには食を成すものにはあらず。政治の代りには食を成すものにはあらず）

神に考えられた方だ、と云う事は、
この本に

天照大神を天岩戸から引き出す
為にアマノウタメの舞をホトモカして舞
った、と唱へた大言不實なもので、それを見事に
天照大神が天岩戸をやり開け降ろ
した時、ホトモカを引いた天、年力故
幕が力一杯やるのや、あけ大開を
外に如したと云ふ、これも大言不
の戦法によつて、
者、何人、大言
すか、知事であつて、
かである、と考へつたもの、うしろ
のこれは神は本舞、
考へた、と云ふ、
か、愉快である。

古代日本治者の徳

古代は本天皇家の統治は知恵による

統治であつて、そのを天皇も、ある時の知恵

も高は、こり、威した、であらう。それか

當時の知恵であつたであらう。それか

その知恵は人をもた、ある術にたけ

こゝの知恵であつた。日本武尊のクマ

リ、知恵は、女、を、クマ、を、た、し、酒

によつて、教、を、た、し、牙

風、を、記、ある、土、を、知、の、場、面、は

土、を、中、か、穴、に、か、れ、て、の、を、あ、い、さ

あ、す、為、に、歌、舞、の、賢、を、知、い、土、を、か

知、り、た、時、一、歩、に、戦、滅、す、と、云、ふ、す

法。八、賢、の、オ、ロ、キ、に、依、て、も、娘、を、傍、に、さ、す

酒、を、の、ま、し、て、よ、い、に、
す、と、云、ふ、の、
た、す、の、解、か、お、家、族、

す、と、云、ふ、の、
た、す、の、解、か、お、家、族、

す、と、云、ふ、の、
た、す、の、解、か、お、家、族、

す、と、云、ふ、の、
た、す、の、解、か、お、家、族、

す、と、云、ふ、の、
た、す、の、解、か、お、家、族、

39 天皇御世の、
は、古、来、の、秘、法、に、あ、る、

④ 是れより本五季の知者の知解で

ひあつて徳をもちに修せしむるの二はなかつ
た。
三六一二七

隣保組織
 片町第1号(和同公用混合)
 区役所
 中込町第1号(和同公用)

和同公用
 R108
 59.2

41

市端行政機関

- 一 市町村役所、警察、郵便局、官公署
- 一 巡査、刑事
- 一 執達吏
- 一 憲兵
- 一 特高
- 一 部落会長、町会長
- 一 隣保班長、町長(行政近隣班長)
- 一 才而委員
- 一 統制委員
- 一 防犯隊長、委員、当番
- 一 診療所係員

(実行)
である。

上からの指示命令は必ずしも
のである。権力のなか不得要領のなか又は
日暮方のみ、ちかいうの中にはその古下
の統治機関を承服せざるべからず
もう一度述べたところ、上から政府は
最上よりその古下の機関の国保の中に
万するべきことによりて
末端機関の業務は頂を調査して、その頂
が口民の物と力を収束する事及び収束
の力の機関や行政の機関に国保するかどうか
を明らかにする事か必要である。政治の
本質は口民より物と力を余すところ
なく積極的に収束する事であるとい
ふより、口民の力を収束する事であるとい
ふことである。

- 42
- 一 公学質屋窓口
 - 一 職業安定所係員
 - 一 口公学機関(学校、屠殺場等)
 - 一 中業指導員(普及員)
 - 一 穀物検査官
 - 一 税金課 税務徴税係
 - 一 山林官
 - 一 口鉄鉄道員
- 口の中央に人なを行政が受け、右の如
き末端機関の行政には強き支配
は及ぶものである。
- 末端行政機関は厳格に人であり
人である。口民の人々とは人として

二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

こんな場合も多い。
①又憲法の位置は見えかゝりて、藩閥の勢力が教育を受けたい貧乏人の子弟であらう。この年若い有力の小役人を勝手にしたとゞ分る筈も無いはずは直ちにうたつかれぬ。故に憲法の人には至はせぬと禁にするより任す方がよい。これを多量の民は合意していい。これも政治の実態であり、政治の本質に通ずるものがある。然しこれにも止まぬ。伯人の責任を追及し、そこを以て政治の技術があり、行政を他人の責任は上へ上へと舞い上つていくのは否にない。有るのが藩閥である。故に大勢の民は行政者には至はるな。何れが生かすためといふ。少数の有力者が小役人と対決する、そしてついには屈服させられる。それを見こしているのが政治家である。

しての行政機關に對決す。生に
 い感情が胸の内にあはれ人
 との對決である。口民は人
 然とかある。行政機關は人
 決す。こゝに於ては、行政機關の正統性、
 果し水。

彼は口良他人は行政担当者
 に対しては一つも負けてゐる。強易は
 彼をばねるまゝに**略**圧服し去る
 其に泣きぬ入る。行政は口良
 今も最大の組織主義の**略**圧服し去る
 最も整然として**略**署によつて身をか
 ねてゐるからである。

V
—
~~6~~

10

43

頤

#

* 政治家の目録の仕事は、利権取引の金銭
 を得るための商賣である。利権取引の
 あゝ大資本を傾けりたまふかしてゐるのか故
 政治家の仕事は利権取引の大口の仕事
 にほ大資本を教養かぬくものではない
 でおもしろいのか政治家である。その仕事
 は結果として民衆にこんなところから
 くるかマイスターになるか、これは懸念
 するところかもしれない。

最上級統治主体とその直下級統治
 組織との関係。最底層とその
 直上級との関係の實際的
 調査研究

